

第142回定時株主総会

2017年度連結業績の概要および2018年度の業績の見通し

2018年6月28日



重要な注意事項

留意事項

本通知において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「武田薬品」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。いかなる株式も本プレゼンテーションによって公開されておりません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

特定されていない限り、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明（シナジーの予測の声明を含みます。）も、いかなる期間における業績予測又その見積もりを意図するものではなく、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明も、現在又は将来の会計年度における武田薬品の収益又は1株あたりの収益が過去に公表された武田薬品の1株あたりの収益と必ずしも合致し、又はそれを超えることを意味すると解釈されてはなりません。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使用されていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。特に、本プレゼンテーションには、2018年事業年度における売上収益、中核利益、営業利益、税引前純利益、親会社の所有者に帰属する純利益、基本的1株当たり利益、研究開発費、無形資産償却費及び減損、並びに収益/費用に関する情報を含む、武田薬品の財務及び事業業績に関する予想及び経営予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。この書類における将来見通し情報は、現在当社が入手可能な情報に鑑みて行った当社の現在の前提及び理念に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を表すものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI（買収後の統合プロセス）が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容は、大きく異なる可能性があります。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいということは何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

2018年度の武田薬品の業績予想について

武田薬品は現在、Shire plcに関するオファー期間（英国のCity Code on Takeovers and Mergers（以下、「コード」）において定義される期間をいいます。）にあります。コード第28条に基づき、武田薬品による2018年度のガイダンスに関する見解（2018年度における売上収益、コア・アーニングス、営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、EPS、研究開発費、無形資産償却費及び減損損失、収益/費用、並びに実質的な売上収益、実質的なコア・アーニングス及び実質的なコア EPSに関する予想情報を含みます。）は、2018年度における業績予想（以下「武田薬品業績予想」）を構成します。

武田薬品業績予想に関する追加情報及び取締役による当該業績予想が有効なものであり、上掲の前提及び当社の会計方針に基づき適切に作成されている旨の確認につきましては、2018年5月14日付けの武田薬品2018年3月期決算短信をご参照ください。

コア・アーニングス及びコア EPSの定義並びに武田薬品が実質的な成長を算出した方法についての説明は、第40頁を参照ください。



2017年度連結業績



2017年度の好業績は優れた実行力を反映

- **財務ベースの力強い実績、EPSは+62.7%の伸長**

- 売上収益は+2.2%の増収、実質的な成長+5.5%と為替による増収影響+2.5ppが事業等の売却による減収影響△5.8ppを吸収
- 営業利益は+55.1%の増益、うち、90%は力強いコア・アーニングスの増益が貢献

- **実質ベースも業界有数の実績、EPSは+44.8%の伸長**

- 実質的な売上収益は+5.5%の増収、成長ドライバーは+12.8%の増収
- 実質的なコア・アーニングスは+40.2%の増益、対売上収益比率は4.2pp向上
- グローバル経費削減イニシアチブは目標を上回る

- **健全な財務状態で2017年度を終了**

- 営業フリー・キャッシュ・フローは+52.9%と大幅に増加して2,429億円
- 純有利子負債／EBITDA倍率は2016年度末の2.7倍から2017年度末は1.8倍まで低下



財務ベースのEPSはコア・アーニングスの力強い成長を反映し62.7%伸長

2017年度 損益計算書（財務ベース）

(億円)	<u>2016年度</u>	<u>2017年度</u>	<u>対前年度</u>	
売上収益	17,321	17,705	+385	+2.2%
営業利益	1,559	2,418	+859	+55.1%
当期利益	1,149	1,869	+719	+62.6%
EPS	147円	239円	+92円	+62.7%
ROE	6.0%	9.6%		+3.6pp



実質ベースの売上収益は+5.5%の増収、 成長ドライバーが牽引

(億円)	2016年度	2017年度	対前年	
売上収益	17,321	17,705	+385	+2.2%
為替影響	194	△245		-2.5pp
為替影響除き売上収益	17,514	17,460	△54	△0.3%
事業等の売却影響	△1,293	△350		+5.8pp
実質的な売上収益	16,221	17,111	+889	+5.5%

成長ドライバー

(消化器系疾患、オンコロジー、ニューロサイエンス、新興国事業) +12.8%

タケダ連結売上に占める成長ドライバーの比率：62%



主力製品の力強い売上実績

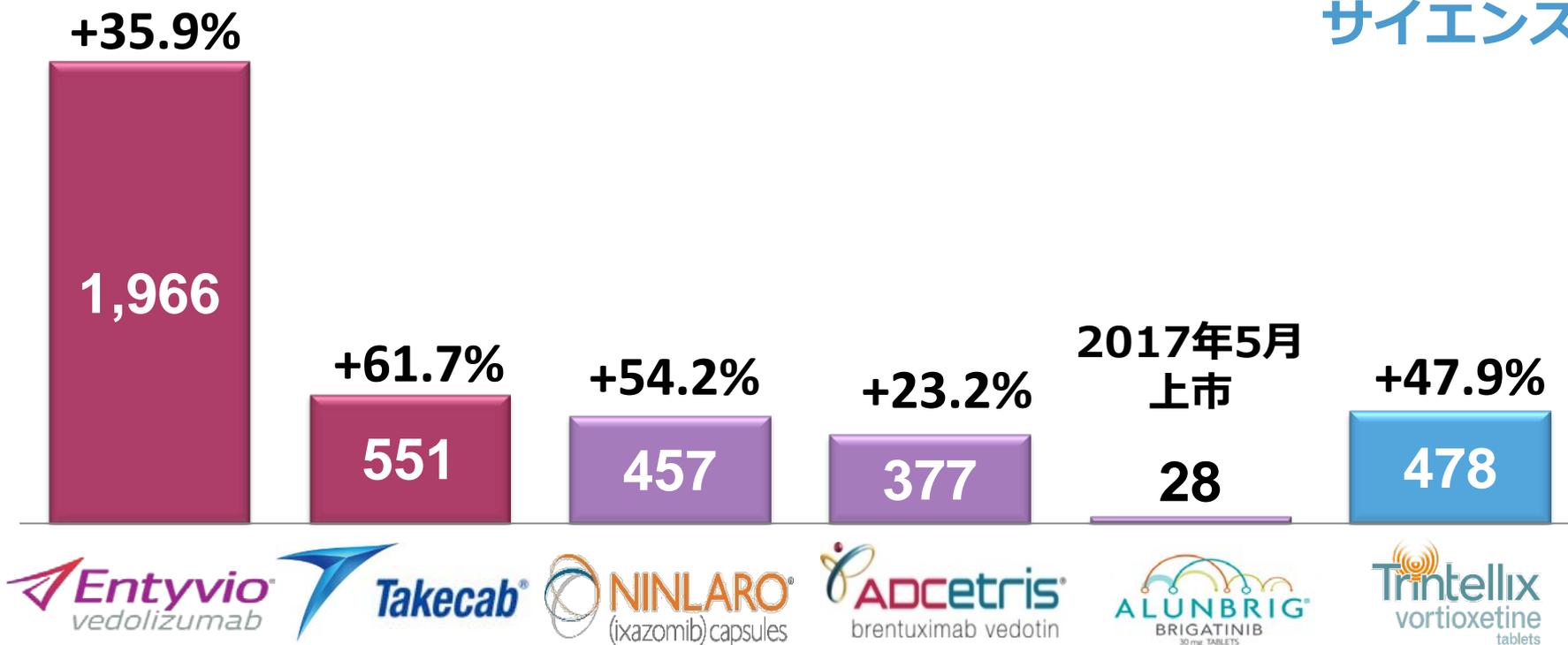
2017年度 実質的な売上収益および成長率

対前年度
億円

消化器系疾患

オンコロジー

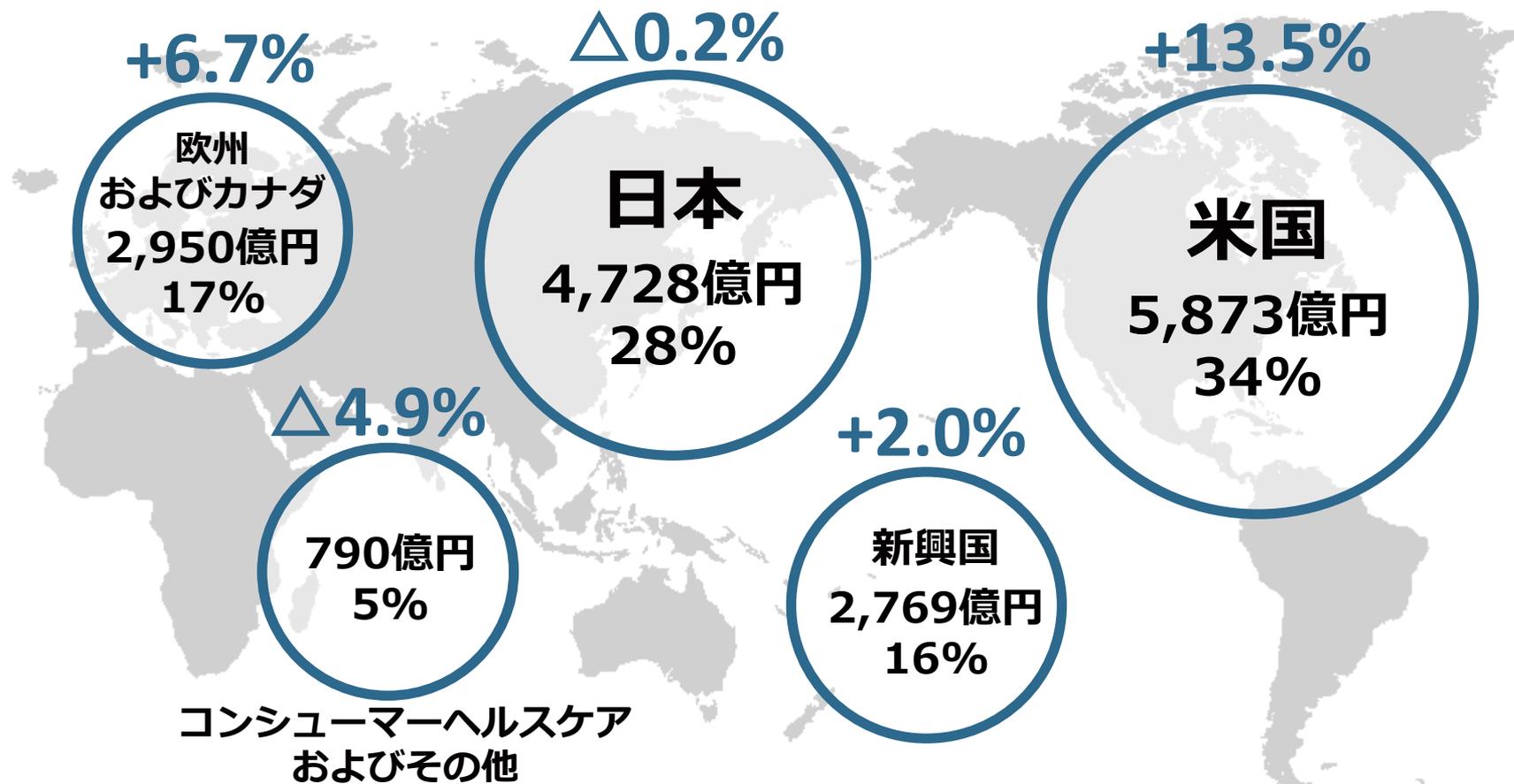
ニューロ
サイエンス





米国の2桁台の成長が牽引した各地域の実質的な売上収益

2017年度 実質的な売上収益: 17,111億円、+5.5%





実質的なコア・アーニングスは+40.2%の増益

(億円)	2016年度	2017年度	対前年	
営業利益	1,559	2,418	+859	+55.1%
為替影響	53	△59	△112	
為替影響除き営業利益	1,612	2,359	+747	+46.4%
事業等の売却影響	△460	△299	+161	
無形資産の償却費および減損損失	1,567	1,221	△346	
和光純薬の株式売却益	-	△1,063	△1,063	
テバ社会弁会社への長期収載品の事業譲渡益	△1,029	-	+1,029	
その他	354	649	+295	
実質的なコア・アーニングス	2,044	2,867	+823	+40.2%



実質的なコア・アーニングスは売上収益の力強い増収と利益率の大幅な向上を反映し40.2%増益

2017年度 損益計算書 (実質ベース)

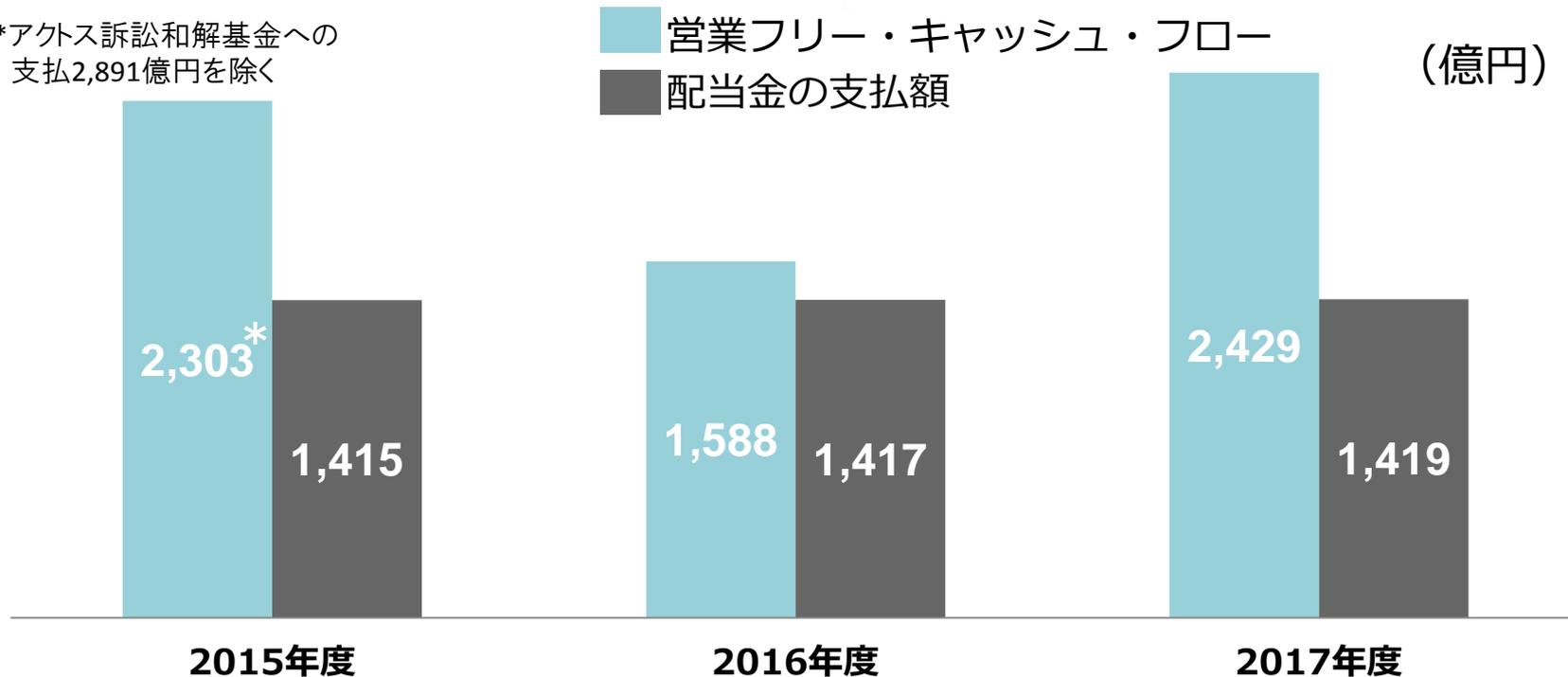
(億円)	<u>2016年度</u>	<u>2017年度</u>	<u>対前年度</u>	
売上収益	16,221	17,111	+889	+5.5%
売上総利益	11,208	12,293	+1,085	+9.7%
営業経費	△9,163	△9,426	△263	△2.9%
コア・アーニングス	2,044	2,867	+823	+40.2%
対売上収益比率	12.6%	16.8%		+4.2pp
コア EPS	192円	279円	+86円	+44.8%



営業フリー・キャッシュ・フローは3年連続で 配当支払以上

*アクトス訴訟和解基金への
支払2,891億円を除く

■ 営業フリー・キャッシュ・フロー
■ 配当金の支払額 (億円)



- 2017年度の営業フリー・キャッシュ・フローは+52.9%と大幅に増加
- ノン・コア資産の売却により、さらに1,644億円のキャッシュを創出
- 純有利子負債／EBITDA倍率は2016年度末の2.7倍から1.8倍まで低下



2018年度の見通し



2018年度は実質的なビジネスの強さが一時的収益の減少による影響を緩和

2018年度 公表予想（財務ベース）

(億円)	2017年度	2018年度	<u>増減</u>	
	<u>実績</u>	<u>公表予想</u>		
売上収益	17,705	17,370	△335	△1.9%
営業利益	2,418	2,010	△408	△16.9%
税引前当期利益	2,172	1,830	△342	△15.7%
当期利益	1,869	1,390	△479	△25.6%
EPS	239 円	178 円	△61 円	△25.7%



2018年度の実質的な売上収益は、 ベルケイドの減収影響があるものの引き続き成長

売上収益の成長に 対する影響ポイント

財務ベースの売上収益の成長	△1.9%
為替影響	約+1.0pp
事業等の売却影響	約+2.0pp
実質的な売上収益の成長	1桁台前半
ベルケイドの独占販売期間満了	△3.5pp
ポートフォリオの変化	△0.9pp
ビジネス・モメンタム	+5-6%

- ベルケイドの2018年度グローバル売上収益見込みは755億円*。
米国において、競合品の一つが、2018年9月に市場に追加参入してくることを業績予想上の前提とし、2017年度1,296億円から541億円の減少を見込む

* 2018年度の計画レートを適用した同一為替換算ベース



実質的なコア・アーニングスの対売上収益比率は向上

	<u>成長率に 対する影響ポイント</u>
財務ベースの営業利益の成長	△16.9%
為替影響	約+4.0pp
事業等の売却影響	約+10.0pp
その他の営業収益／費用等	約+11.0pp
実質的なコア・アーニングスの成長	1桁台後半

- 製品構成が引き続き改善（2018年度はベルケイドの影響によりペースは緩やかに）
- グローバル経費削減イニシアチブが利益率の向上に貢献
- 実質的なコア・アーニングスの対売上収益比率は1～2%の範囲の下端で向上



2018年度はベルケイドの減少影響があるものの、 売上・利益の成長モメンタムを維持

	2018年度 マネジメントガイダンス (成長率 %)
実質的な売上収益	1桁台前半
実質的なコア・アーニングス	1桁台後半
実質的なコアEPS	10%台前半
1株当たり年間配当金	180円 (如何なる事業活動の可能性に関わらず)

Better Health, Brighter Future



武田薬品工業株式会社